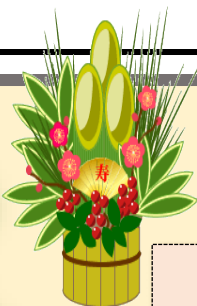


絆  
きずな



# 謹賀新年

## 市議会報告

2022 年  
12 月市議会報告  
Vol・14



小林たかひろ

皆さまには、ご家族お揃いで輝かしい新年を迎えられたことと存じます。コロナ禍も今年で4年目。祭礼行事など相次ぐイベントの中止で、人と人との絆が薄れてしまっているような気がします。更に9月には台風14号が通過。浸水や道路寸断などの災害が多発しました。今年こそは平穏無事な良き年となりますよう祈るばかりです。

さて、昨年12月議会では、台風や地震災害をテーマに質問を行いました。そのおもな概要を皆さまにお届けいたします。

### 一般質問 《小林の質問》

#### ●大規模災害に備える取組み

##### 1. 14号台風による被害を踏まえた課題と今後の対応について伺います。

**質問1▶** 緊急避難場所を開いた時間に差があります（1回目が9月17日の18時で12会場。2回目が9月18日の11時で残り9会場を開設）。台風も大型で非常に強い勢力であることは事前に分かっているのに、なぜ、避難指示を発令した18日の午前8時に、21会場同時に開設しなかったのですか？

#### 《市長・部長の答弁》

台風の進路・大雨警報の予想に基づいて開設しました。振り返り（反省会）を行いました。同時に開設しても良かったのでは…との意見もありました。今後、検討したいと思います。



ふるさとの風景：「気嵐(ケアラシ)」の海(美々津海岸：昨年12月撮影)

**質問2▶** 外水・内水氾濫のハザードマップの作成（色分け）と内水を本流へと逃がすポンプ場の設置についてはどう考えますか（東郷町・小野田地区、美々津町余瀬・飯谷鳥川地区、美々津町下町、幸脇東地区などの床上・床下浸水防止対策が必要です）。



美々津町・余瀬地区の内水氾濫で床上浸水した住家は20戸弱。被災後の9月27日（朝西の丸（西谷栄一会長）のボランティア活動メンバー（30数名）が使えなくなった家具などを運び出す作業に駆け付けてくれました。地元の皆さんも大層喜ばれていました。

また、同社の皆さんは、お倉が浜の流木処理にも参加。活躍されています。

#### 《市長・部長の答弁》

この度の内水による浸水被災地域は、現在の洪水想定マップに含まれています。新たに内水ハザードマップを作ることについては、総合的に判断します。内水処理のポンプ場整備は、河川管理者の宮崎県が検証を行うことになっていますから、その結果に基づいて防災対策の強化・充実に取り組めます。

**《市長・部長の答弁》** 重機が進入できるエリアは、すでに集積を終えています。進入できないエリアは、県や市、市民の皆さんのご協力で人力での処理に努めています。今後は県土木事務所と連携して対応します。

**質問3▶** 海岸一帯に打ち上げられているおびただしい量の流木などの処理について伺います。特に、重機が入らない「金が浜の一部」「フクトが浦やふなま海岸」「美々津海岸の一部」のエリアです。

また、砂浜を走行しながら漂着ごみを漑し取る「ビーチクリーナー」を導入する考えはありませんか？



大量に打ち上げられている流木（遠見地区・舟間海岸）

**質問4▶** 台風通過の度に剥落・修理を繰り返す「美々津・伝建地区の漆喰壁」について、建築技法の見直しも含め、今後、求められる対応を伺います。

**《教育長の答弁》** 漆喰壁は、台風や大雨などの影響を受けやすく、ヒビや亀裂を放置しておくと、そこから雨水が進入して剥落しやすくなります。また、その後の天候によっては、風雨や晴天の日が繰り返されると、膨張・収縮が連続して発生し、剥落・崩落につながると言われています。修理・修復は、これまでどおりの伝統技法で行いつつも、試験的に新たな技法も取り入れています。今後も有識者や技術者とも十分協議・検討しながら壁の維持に努めたいと思います。



14号台風で剥落した美々津・伝建地区の漆喰壁



## ●大規模災害に備える取組み

## 1. 南海トラフによる巨大地震・津波対策について問います

質問1▶ 昨年11月、熊本地震で大きな被害を受けた西原村と益城町及び宮崎県防災庁舎を総合防災対策特別委員会のメンバーで視察しました。先進的な取組みを目の当たりにしましたが、視察の結果を踏まえ、質問しました。

質問1▶ 防災備蓄倉庫の現状と今後の対応はどうでしょうか。

《市長・部長の答弁》 「日向市備蓄計画」に基づいて食料品などを13箇所の拠点避難所を中心に分散備蓄を計画している。現在は「日向中体育館」、「財光寺中体育館」、「旧幸脇小体育館」、「東郷地区文化センター」に備蓄しています。今後は「富高小体育館と建設予定の総合体育館」への配備を計画しており、迅速な物資の輸送に努めます。



熊本県・益城町の防災備蓄倉庫。指定避難所や緊急避難場所にも設置するという説明がありました。全46箇所。屋外配備の利点は、車が横付けできること。避難所にはできるだけの避難者を収容するスペースを確保できること。更に、40℃以上になるとセンサーが作動。倉庫内を一定温度に保つことができる仕組みになっています。

## ●防災備蓄倉庫に関連して考える

熊本県・益城町、防災備蓄倉庫は、屋外に配備されています。理由は上記、説明のとおりですが、本市に建設予定の「総合体育館」高台への建設が予定されていますが、これは良しとしても、南海トラフ規模の巨大地震では、東日本大震災でも立証されているように、「地盤沈下」や「液状化」現象が起きます。プレート型地震の特徴です。東日本大震災時には、平均で40〜50センチほど沈下。1メートル以上も沈下したところもありました。そこへ、平均15メートルの大津波が押し寄せてくる。

大王谷運動公園周囲の道路事情…。北側には江ノ口水門、庄手川があります。南側には亀崎川が流れています。地盤沈下プラス津波浸水。著しく沈下したところには、数か月も水が引かない「湛（たん）水」という現象が起きます。車両による物資の輸送は困難を極めると思われます。被災時・被災後にどうやって体育館までたどり着くのか疑問です。

陸路が使えないなら、空路（ヘリコプターなど）があるじゃないか…と思う方もおられると思いますが、東海・東南海・南海、そして日向灘のエリアの巨大地震、大津波です。首都圏域はもちろん、東海・近畿エリア、四国・九州エリアの大都市圏域が被災し、壊滅的な打撃を受けますから、ヘリによる輸送はそちらへ優先され、到底期待できません。

日向市でも、橋梁などの道路交通インフラが崩壊して寸断を余儀なくされます。食料品や衣類、寝具といった生活するための備蓄物資をどのようにして、いち早く避難所の皆さんへ届けるのか…。

地域防災計画書に記載されている項目だけではなく、「ドローン活用」など、先進事例を参考に、十分過ぎるシミュレーションを描きながら災害に強いまちづくりを進める必要性を感じます。

熊本地震で被災した自治体の復興を視察して、そう思いました。小職も現職時代、防災所管を務め、多くを経験しました。防災対策業務には終わりはないと実感しています。

**Back Stage** ▶大型で非常に強い台風の襲来。空振りは許されても見逃しは許されない。マニュアルも時には打ち砕き、避難所の同時開設など、万全を期していただきたい。暴風雨のさなか、A避難所からB避難所へと動いた区長さんもいる。▶小職もお世話になった(株)西の丸の皆さん方とお倉が浜や余瀬地区でボラ活を行った。サンパーク下の「フクトが浦」の流木処理にも市や県職員と地元の皆さんと参加。それなりの体力が要請されるが、地元の方々のことを思うと、そんなことは言ってもらえない。ご参加された皆さんには感謝。▶「ブルーフラッグ」。認証取得のハードルは高いが、「ライフセイバー」の常設配備は心強い。「津波フラッグ」と併せ、安全・安心の「渚の交番」の配置を考えて欲しい。 koba

《市長・部長の答弁》 認証されまると、市民の皆さんのまちに対する愛着や誇りが育まれると思いますし、本市の知名度も上がり、観光客も増加。地域経済の活性化にもつながります。

でも、海岸管理者の県や地元自治会や市内のサーフィン関係者の理解・協力はもちろん、毎年ごとの更新、環境保全活動の経費、ライフセイバーの常時配置など課題も多くあります。

調査・研究したいと思います。

駐車場の有料化は、課題などを整理。

関係者のご意見を伺い、検討します。



質問2▶ 海辺の国際環境認証制度「ブルーフラッグ」を取得してはどうでしょうか。認証基準として4分野・33項目をクリアする必要があります。県内外に点在するサーフィン・海水浴場の差別化が図られ、誘客増、移住・定住の促進にもつながります。

さらに、海辺の環境保全の財源として、駐車場使用料金制度について考察すべき時期にきていると考えますが、いかがでしょうか。

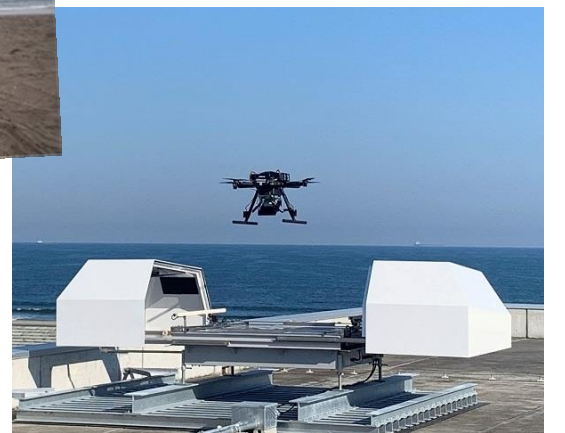
質問3▶ サーファー・海水浴客の皆さんへの津波周知対策として、本市の「地域防災計画書」にも記載されている「津波フラッグ」の掲揚による迅速な避難の呼びかけや誘導はマニュアル化されているのでしょうか。

また、総務省・消防庁は、全国の消防団にドローンを本格的に導入する方針を固めています（補助金交付制度あり）。先進都市では、サーフに2機を配備。津波警報発令時には、自動的に飛び立ち、海水浴客らに上空から避難を呼びかけるアナウンスを行うものです。本市の取り組みはどうでしょうか？



津波警報をサーファーに知らせる「津波フラッグ」

宮城県・仙台市では、津波警報の発令を上空からアナウンスで知らせる画期的な取り組みを既に実施しています



《市長・部長の答弁》 お倉が浜などで、海水浴客・サーファーの皆さんが安心して利用できるよう、防災行政無線や避難誘導掲示板による周知・誘導に加え、気象庁が定めているガイドラインをもとに、「地域防災計画書」にも記載されている「津波フラッグ」の周知を図ります。

また、実情に合わせながら、同フラッグの導入を進めます。

ドローン導入ですが、現在、消防本部に1機配備して捜索活動や火災の原因調査などに運用しています。

また、昨年9月に関係各部署で構成する「ドローン活用推進チーム」を立ち上げ、地域課題の解決や災害時の活用など協議を始めています。

▶皆さんが困っていることやご意見、ご要望、ご提案などがありましたら、いつでも気軽にお電話、メール、SNS（Facebook、Line）でご連絡ください。

（市の施設や道路、高齢者等の介護、教育問題など）よろず相談受け付けます。



## 小林たかひろ事務所

▶住所：〒889-1112/日向市大字幸脇1088番地2  
▶Tel・Fax：0982-58-0073 携帯：090-4347-2712  
▶メール：kobat1125@gmail.com  
▶小林たかひろホームページ：kobat.mimikawa.net